



図 1.9: 極冷中性子の振動鏡反射実験

うにしてパラメーター α の種々の値に対して得られた測定結果を物質波計算と比較したのが図 1.9 (b) であり, 測定の分解能の効果を考慮すれば両者は極めてよい一致を示している. α の値の増大に対する連続スペクトルへの移行の傾向から, それぞれのパラメーター値に対応した解析法の妥当性が確認されるとともに, 図 1.8 で示された量子力学から古典力学への移行傾向が実験において認められた.